

# 東京都 スポーツ推進委員だより

第111号

(一社)東京都スポーツ推進委員協議会

2017年3月31日

編集：情報委員会

## 社員総会



## 平成28年度 第4回社員総会

3月22日(水)午後6時30分から武蔵野公会堂



議室で一般社団法人東京都スポーツ推進委員協議会第4回社員総会が行われました。

新島二三彦会長より今年度最後の総会に際しお礼の挨拶の後、東京都

オリンピック・パラリンピック準備局スポーツ推進部調整課 関口尚志課長様からは、東京マラソン協力への謝辞と地域スポーツクラブでの学校と地域の協力に関して等のご挨拶がありました。

定足数の確認では、出席43名、委任状7名、合計50名で正会員の過半数を満たしており、総会が成立しました。議長は定款に基づき新島会長が行いました。



議事について

### (1) 報告事項

- 1) 理事会報告(第8回:1月11日/  
第9回:2月8日/第10回:3月8日)
- 2) 各委員会報告(企画総務・研修・情報・女性)
- 3) 財務報告(賛助金の報告)
- 4) 広域地区別研修会報告  
※報告書は現在編集中
- 5) 地域スポーツ支援研修会について  
(区部:1月28日/市町村部:2月11日/  
/全域:2月18、19日)
- 6) 新宿シティハーフマラソン・区民健康マラソン  
(1月29日)

- 7) 生涯スポーツ体力づくり全国会議2017について  
(2月3日)
- 8) 全国スポーツ推進委員連合リーダー養成講習会  
(2月11、12日)
- 9) 関東地区スポーツ委員協議会理事会について  
(2月13日)
- 10) 東京マラソンについて(2月26日)
- 11) 東京都障害者スポーツセミナーについて  
(3月4日)
- 12) 平成30年度関東スポーツ推進委員研究大会  
コア会議(1回目:1月26日/  
2回目:2月15日/3回目:3月15日)
- 13) リーダー委員会内規
- 14) その他

### (2) 協議事項

- 1) 平成29年度事業計画(案)について
- 2) 平成29年度予算(案)について
- 3) 研修事業計画(案)について
- 4) 都スポ協60周年記念誌発行について
- 5) [東京都スポーツ推進総合計画(仮称)]の  
策定についてのご意見
- 6) その他

協議事項の平成29年度事業計画(案)、平成29年度予算(案)、研修事業計画(案)は拍手により採決し、他の協議事項も全て承認され、総会は終了しました。



記事・写真

情報委員会 平野 秀夫 (江戸川区)

## 全国大会



# 生涯スポーツ・体力づくり全国会議 2017

生涯スポーツ・体力づくり全国会議 2017～人・スポーツ・未来～が平成29年2月3日、宮城県仙台市で開催されました。この会議は、スポーツ立国の実現に向けて、スポーツに関連する多様な人々が一堂に会し、研究協議や意見交換を行い、今後のスポーツ推進方策について検討することを目的としています。

全体テーマは「スポーツの更なる発展に向けて～スポーツの力を生かす～」で、スポーツのさらなる発展



に向けて、スポーツに興味・関心がない人も含め、年齢や性別、障がい等を問わず、多くの人々にスポーツへの参画を促進するため、スポーツの力を最大限生かすことができる新たな方策について協議を行うというものです。

会議は午前が全体会、昼食をはさんで午後が分科会という構成でした。その概要は以下のとおりです。

### ■全体会（シンポジウム）

テーマ：スポーツの力を伝えるために ～融合と多様性～

コーディネーター：友添秀則氏（早稲田大学スポーツ科学学術院教授）

シンポジスト：①澤田智洋氏（世界ゆるスポーツ協会代表理事）、②朝原宣治氏（大阪ガス株式会社近畿圏部地域活性創造チームマネジャー、一般社団法人アスリートネットワーク副理事長）、③高崎尚樹氏（株式会社ルネサンス取締役専務執行役員ヘルスケア事業担当新業態・新規事業担当）、④村松淳司氏（東北大学多元物質科学研究所所長・教授）

### ◆シンポジストの発言要旨

#### 澤田氏

- ・運動は今でも苦手。バブルサッカー、ベビーバスケット等の新しいスポーツを展開している。
- ・スポーツの再解釈が必要だと考えている。スポーツは「新薬、障がい者のステージ、家族ビルド、日本技術のショーケース、企業活性化ツール、地方創成ツール」である。
- ・スポーツの力を新しいスポーツで生かし切る。それには面白さが大事である。

#### 朝原氏

- ・NOBY T&F CLUB（陸上のクラブ）で社会連携（大阪ガス、自治体、大学、企業、地域住民）を創造する活動をしている。
- ・食育プログラム、アスリートネットワークの活動により、スポーツを通じたまちづくり、アスリートの自立を目指している。
- ・様々な活動を通して、スポーツを日常に落とし込むことが大事である。

#### 高崎氏

- ・運動はクスリだ（ピッツバーグ大学 カークエリクソン博士）。
- ・お金を自分で払ってもらうにはどうしたらよいか。それを考えることが重要。
- ・残すべきは組織ではなく、機能と人である。つながりを日々見直すといノベーションが起こる。
- ・スポーツは素晴らしい。心を共にし、協働すれば、必ず新しい世界が広がる。

#### 村松氏

- ・仙台・宮城のスポーツと地域密着について、3つの視点で紹介。
- ・プロスポーツ主要3球団（ベガルタ仙台、楽天イーグルス、仙台89ERS）の地域密着。
- ・東日本大震災からの復興におけるスポーツの地域密着。
- ・スポーツボランティア（スポーツに興味がなくとも参加できる、一人ひとりのスポーツライフが豊かになる）。



### ◆まとめ（スポーツの力を伝えていくためにはどうしたらよいか）

- ・供給側の視点で考えるとダメ。
- ・スポーツを作る発想で考えていく必要がある。
- ・無関心者にどう関わってもらうか。（スポーツボランティアの展開）
- ・スポーツ基本法の趣旨を理解し、我々が伝道師となっていくことが重要。

## ■分科会

分科会は以下の4つに分かれて行われ、私はスポーツ推進委員について取り上げた第1分科会に参加しました。

- ・第1分科会：地方推進計画の成果とスポーツ推進委員のこれからの役割や課題
- ・第2分科会：高齢者のスポーツ未実施者をいかに誘うか～掘り起こし、継続させる新たな試み～
- ・第3分科会：地域包括ケアシステムにおけるスポーツ・運動の活用とソーシャルキャピタルの醸成
- ・第4分科会：障がい者のスポーツ施設利用の拡大に向けて

### ◆第1分科会

コーディネーター：園山和夫氏（公益社団法人全国スポーツ推進委員連合専務理事）

パネリスト：①飯坂尚登氏（秋田県観光文化スポーツ部スポーツ振興課長）、②土屋忠昭氏（大分県スポーツ推進委員協議会会長）、③松永敬子氏（龍谷大学経営学部スポーツサイエンスコース教授）

### ◆シンポジストの発言テーマと要旨

**飯坂氏**「地方スポーツ推進計画とスポーツ推進委員」

- ・「スポーツ立県あきた」宣言（平成21年9月）により、スポーツを秋田の活力と発展のシンボルとして位置づけている。

- ・スポーツ推進計画の「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進」の施策として、スポーツ推進委員協議会と連携したスポーツ活動実態調査や、県協議会への支援と連携強化を明記している。

- ・全県体力テスト・スポーツ実施実態調査を、県スポーツ推進委員協議会に委託して実施し、その結果を活動のバックデータとして活用している（平成28年度事業費3,342千円）。

**土屋氏**「スポーツ推進委員に 今、求められるもの」

- ・スポーツ参加への変革 参加（行政主導型）から参画（地域住民主導型）へ。

- ・個人としての意識改革（スポ推と体指の違い・役割の理解） 研修の実施が重要である。

- ・スポーツ推進委員の二極化現象 主な原因は選任・委嘱のあり方。基準の明確化が必要である。

- ・選任方法の事例紹介（香川県高松市、東京都新宿区、福島県会津若松市）

**松永氏**「スポーツ推進委員の新たな力を生かすために」

- ・各都道府県地方スポーツ推進計画にスポーツ推進委員に関する記述はあるが、指標はない。

- ・健康・スポーツを取り巻く問題・課題だけに注目するのではなく、地域の問題・課題に注目し、解決するために健康・スポーツを活用することが求められる（実践例として、伝工芸と京都マラソンのコラボの紹介があった）。

- ・スポーツ以外のものとの繋がり、関係性が重要

- ・認知度向上の工夫が必要（例：検索ワードに「スポ推」がなくてもヒットする工夫を）

- ・新たな力を生かすためには、論理的思考と批判的思考の2つをバランスさせる意識と行動が求められる。

### ◆まとめに代えての追加発言

**飯坂氏**：課題となっている子育て世代と働き盛り世代へのアプローチを、スポーツ推進委員と一緒にやっていきたい。

**土屋氏**：日本酒の「八海山」を取り上げたTV番組で、「良い酒よりも、いつの間にか飲んでいる酒造りを目指している」という話があった。スポーツに置き換えて考えたら面白いのではないか。

**松永氏**：キーワードは「リエゾン＝フランス語で、組織間の連絡、連携」

### ■会議全体を通して感じたこと

今回の参加は約800名。その約8割が東北・北海道からの参加者で、全体会、分科会ともに参加者から活発な質問が出ていました。

スポーツ実施率を向上するためには、スポーツのとらえ方をより柔軟にしていく必要があります。そのためヒントは身の回りに溢れているのですが、それに気付いていないことを改めて認識させられました。スポーツ推進委員の二極化現象（積極的に活動する人、そうでない人）への対応は重要な課題です。選任方法を見直す必要性を感じ、また、研修の重要性を再認識した会議でした。

記事・写真 会長 新島 二三彦

## 研修会



## 地域スポーツ支援研修会（区部）

1月28日（土）高輪区民センターにて、地域スポーツ支援研修会が開催されました。東京都オリンピック・パラリンピック準備局スポーツ推進部 関口尚志調整課長の挨拶と都スポ協 新島二三彦会長の挨拶の後『ロンドン・リオのオリ・パラ大会に学ぶ』～スポー

ツ実施率70%に向けた取り組みについて考える～をテーマに、講師に早稲田大学 スポーツ科学学術院教授 原田宗彦氏を迎え、スポーツ実施率70%に向けたスポーツに親しむまちづくりについて156名が研修を受けました。

急激にスポーツ実施率が伸びた例で、2007年に始まった「東京マラソン」があり、ランニングに関する社会の見る目が変わり、道路や遊歩道でのスポーツの実施増加が挙げられました。

しかし、ブームは沈静化によりスポーツ実施率も減少し、2015年には全国的にも47.5%から40.

4%に落ち込むなど、なかなかスポーツ実施率は上がらない状況であるようです。

原田先生はライフステージに合わせたスポーツ実施を推奨し、日常生活をアクティブにすることでスポーツ実施と結びつけることを提案されました。スポーツの定義を拡大し、アクティブライフという考え方で、例として「スポーツツーリズム」「観光とスポーツ」

「スポーツイベントと都市」などさまざまな考え方を紹介してくださいました。

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、スポーツに関心が向けられるのは確実なので、大きなイベントの後に何を残せるかを考えていく必要があるとのお話でした。

後半のトークセッションでは「2020年大会以降の地域スポーツを考える」をテーマに新宿区 青木しおり

氏、台東区 金田浩一氏、大田区 渡邊一代氏、杉並区 渡邊ひろ子氏、江東区 野島和博氏による、各地域での活動状況をお聞きしました。

スポーツ推進委員として何が出来るのか考えさせられる研修でした。

記事・写真 情報委員会 松田 文子（豊島区）



## 研修会



## 地域スポーツ支援研修会（市町村部）

2月11日（土）立川市女性総合センターアイムホールにおいて、平成28年度地域スポーツ支援研修会（市町村部）が開催されました。講師に原田宗彦氏（早稲田大学スポーツ科学学術院教授）を迎え「ロンドン・リオのオリ・パラ大会に学ぶ」～スポーツ実施率70%に向けて取り組みについて考える～について講義していただきました。参加者は185名でした。

開講式での東京都オリンピック・パラリンピック準備局スポーツ推進部関口尚志調整課長の挨拶では、今年度の調査では全体では前年に比



べスポーツ実施率がやや下がったが、働き盛り世代ではやや増えている。また東京都ではスポーツ施設のバリアフリー化や夜間照明施設の拡大など施設の充実を図っているとお話が有りました。

講義は2週間前に開かれた地域スポーツ支援研修会（区部）と講義内容と講師が同じのためか、慣れた話し方で分かりやすく聞けました。スポーツの実施率を高める施策として施設・環境整備や地域住民のためのスポーツ・健康政策の実践を行うインナー政策と、観光マーケティング・環境整備観光商品開発とデリバリ

ーによる交流人口の拡大を通じた地域経済の活性化のねらうアウター政策という言葉を知りました。人口減少による経済が縮小しつつある地域にアトラクションとしてのスポーツイベントを行う事によりスポーツに参加する人のみならず、観客を集める事により交通機関や飲食店・ホテルなど経済効果を高めるアウター政策をこれから推し進めていく事が重要と感じました。

後半のトークセッションでは都スポ協研修委員会の橋本氏と川口氏をコーディネーターとして、町田市 山城譲治氏、青梅市 吉澤政弘氏、昭島市 石川英次氏、国分寺市 島貴金雄氏、小平市 尾崎信幸氏による各地域の活動状況の発表が有りました。



スポーツ実施率が55%前後の市が多く、さらに高い目標を掲げていました。

活動内容は地区によりさまざまですが、子どもの体力向上に合わせたプログラムや親子での運動会、オリ・パラ教育など東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会以降のスポーツに繋がる内容もありました。

記事・写真 情報委員会 小久保 佳昭（八王子市）

## 研修会



## 地域スポーツ支援研修会（全域）

2月18日(土)、2月19日(日) 新宿区四谷中学校において初めて行うスポーツレクリエーション指導者養成講習会が行われました。1日目はコミュニティルームで講習を受け、2日目は午前中、体育館で実技を行い午後はコミュニティルームで講習を受けました。参加者数が23名と少なかったのですがとても中味の濃い役に立つ講習でした。

1日目の講習は①(公財)日本レクリエーション協会 河原塚達樹氏「レクリエーションとは」。②立教大学 松尾哲矢氏「スポーツレクリエーション概論」スポーツレクリエーションとは何か、スポレク指導者の使命についてなど。③文化学園大学 安永明智氏「スポーツレクリエーション心理学」運動のもたらす心的効果について。④順天堂大学 吉原利典氏「スポーツレクリエーション生理学」運動のもたらす身体的効果について。



⑤(公財)日本レクリエーション協会 河原塚達樹氏「スポーツ未実施者参加促進法」スポーツ未実施者の掘り起こしのための手法など、3つの方法でグループワークを行いました。

レクリエーションとは心の元気を回復させる役割を持っていると言う大切さを知り、公認指導者の必要性も十分に伝わってきました。

2日目の講師は河原塚達樹氏「動機づけの支援技術」楽しみながら自分のからだを意識して、運動への意欲に繋げる方法についてお話を伺い、実技はスロージョギングから始まりました。

続いて、(一社)新潟県レクリエーション協会 渡辺耕司氏「レク式体力チェックを活用して個人の意欲づけ



に繋がる手法」として、色々なチェックの仕方でも楽しくやれて、自分の体力がわかってくる手法など、とても役に立つ実技でした。

東京都オリンピック・パラリンピック準備局 石崎万里氏からは「行政との連携の仕方」行政との連携が必要な理由、行政との連携方法、都における連携事業

等のお話を伺いました。

(一財)日本健康財団 小室史恵氏「安全管理」では体調管理の方法、安全管理の基礎について、(公財)日本レクリエーション協会 丸山正氏「スポーツレクリエーション活動の場づくり」と、多くの講師の方々に全学習過程12時間を学ばせていただきました。

次回はもっと多くのスポーツ推進委員会の方に受講してもらえばもっと広がっていくと思いました。

最後に代表で新島会長が修了書を頂き閉会となりました。2日間、講習お疲れ様でした！



記事・写真 情報委員会 仲 豊子（台東区）

## 事業



## 東京マラソン2017



2月26日、日本一の人気を誇る『東京マラソン2017』が快晴の中、開催されました。「東京の素晴らしさを内外に一層アピールする」「記録を狙える高速コースにする」との視点からコース変更を行い、新たなコースで挑んだ記念すべき今大会で

は、期待されたとおりの結果を得ることができました。

男子優勝はウィルソン・キブサング選手で、これまでの国内最高記録を大幅に更新する2時間3分58秒で都心を駆け抜けました。

女子はサラ・チェプチルチル選手が2時間19分47秒で優勝し、こちらも国内最高記録を樹立しました。また、日本人トップは男子8位の井上大仁選手、女子4位の藤本彩夏選手でした。

コース整理班はマラソン観戦スポットの名所である「雷門前」。コース変更に伴い、マラソン前半部分の15キロ地点となったことから、ランナーが散けず一般ランナーの波が一斉に押し寄せてきます。コース幅を拡幅し対応したこともあり、ランナー同士の接触や転倒等の事故もなく、無事ボランティアの役割を果たすことができました。

2007年に開催した東京マラソンを契機に、スポーツボランティアが広く社会に認知されるようになりました。2020年東京オリンピック・パラリンピック大会を3年後に控え、今後スポーツボランティアの重要性は増していきます。

台東区のスポーツ推進委員は、区主催のスポーツボランティア講習会を受講するとともに、スポーツボランティアへの登録を行い、各種のスポーツイベントにおいてスポーツボランティアとして活動しています。

2020年東京大会へ向けての躍動は既に始まっているのです。



記事・写真 情報委員会 仲 豊子（台東区）

## 研修会



## 東京都障害者スポーツセミナー

日 時 平成29年3月4日（土）  
13時30分～17時

開催場所 台東区リバーサイドスポーツセンター  
会議室 第二競技場

テ ー マ 「知ること、感ずること、考えること、  
そして伝えること」

講 義 「視覚障害者の概要」

講 師 埼玉県障がい者スポーツ指導者協議会  
会長 河野章氏

実 技 ①視覚障害のある人のガイドヘルパー体験  
講師 河野章氏（前掲）  
②視覚障害のある人のヨガ  
講師 NPO 法人日本カルチャーヨガ協会  
高平千世氏

ま と め 「スポーツにおける留意点」  
講師 河野章氏（前掲）  
高平千世氏（前掲）

今回のセミナーは区市町村スポーツ推進委員を対象とした、視覚障害のある人への支援の方法を学び、体験する機会であった。このセミナーを通じて以下のようなことを学んだ。

- ・視覚障害のある人への支援。
- ・声をかけてから体に触れる。
- ・視覚障害のある人がガイドの肘の上を持つ。
- ・ガイドは視覚障害のある人の半歩前を歩く。十分な幅をとり、安全確保しながら誘導する。
- ・歩く速さに気をつけて、段差や障害物など状況を伝える。
- ・不安を取り除くために常に声掛けをする。



記事・写真 情報委員会 佐野 守（杉並区）

#####  
編集後記

平成28年度もあっという間に過ぎ去ったように思います。2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、スポーツ推進委員として何ができるのか、まだまだ課題はたくさん残されているように感じます。2018年6月には関東スポーツ推進委員研究大会東京大会が開催されます。

東京都のスポーツ推進委員の力が集結する大会です。大きなイベントが過ぎた後に何が残せるのか、それもまた大きな課題です。何はともあれ、刻々と近づいているのは確かなこと。

次年度もどうぞよろしくお願いいたします。

編集 情報委員会 松田 文子（豊島区）

#####